

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第4回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成30年度地域活動支援事業について（報告）（公開）

(2) 金谷区の地域団体との意見交換会のふりかえりについて（公開）

(3) 金谷区の地域課題「他団体や他地域との連携」の今後の進め方について（公開）

3 開催日時

平成30年7月25日（水） 午後6時33分から午後8時7分まで

4 開催場所

青木町内会館

5 傍聴人の数

8人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：高宮宏一(会長)、川住健作(副会長)、村田敏昭(副会長)、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・牛木委員を除く15名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：伊崎委員、石野委員に依頼

—次第2 議題等の確認—

【高宮会長】

次第2 「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第3 報告（1）平成30年度地域活動支援事業について（報告）—

【高宮会長】

次第3 報告（1）「平成30年度地域活動支援事業について（報告）」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1をもとに説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第4 議題（1）金谷区の地域団体との意見交換会のふりかえりについて—

【高宮会長】

次第4 議題（1）「金谷区の地域団体との意見交換会のふりかえりについて」に入る。

6月20日（水）に金谷区の地域団体10団体の方が参加し、意見交換会を開催した。まずは当日出席した委員から、一人ずつ感想を述べてほしい。

【伊崎委員】

金谷体育協会は、今でも通年で野球、ソフトボール、バレーボールを企画しているが、例えば、学生を含めてもよいと思うが、若い世代が企画するスポーツ競技を加えることができれば、体育協会に若い世代が入り企画運営をすることで、面白い地域の交わり、交流の会が増えるのではないかと感じた。

また、民生委員から、小さい子どもへの対応に手が回っていない、との話もあったため、そういった子ども向けの対応もできたら、より金谷区が住みやすい町になるのではないかと感じた。

私は地域協議会委員の他に男女共同参画審議会委員という市の仕事をしている。男女共同参画に対して市でもいろいろと取り組んでいるが、そのイベントと絡めながらこういった問題解決に繋がる糸口があるか、今情報などを仕入れており、動けていけそうだと感じている。

【石野委員】

各団体等の意見を聞いていく中で、高齢化が一番の理由だろうが、だんだん衰退してきている会が非常に多くなっている。当協議会が何かサポートしながら市へ要望できるような意見はあまりなかったため、自主的審議に結びつけていくことは見出せていけないと感じている。これを自主的審議に取り上げていくのであれば、もう1度会との連携を図った中で、いろいろと要望などを聞いていく必要がある。

【伊藤委員】

10団体という大人数の話し合いで、話す時間が短く感じたし、一つの団体から意見を聞く時間が短く、通り一遍の報告会のような気がした。もう少し突っ込んだ時間が取ればよかったと思う。役員も高齢化しており活気がないという団体が10団体の半分以上を占めていたように思えるため、もう少し若返りをして、新しい考え、新しい力で発展性のある会を。今のままで仕方がないというのではなく、新しい力を得ていく方法を考えて欲しかった。

【川住副会長】

全体を通して、どの会も後継者や若い人たち、これは無理がないと思う。皆さん生活を懸けて日中働いているため、その中でこういったボランティア的な仕事を頼むのは難しいと思う。そういったことが共通してどの団体にもあった。特に自分は

金谷体育協会の中で、全盛時代にはスキー大会もするなど過去の栄光をいろいろと見てきたが、年々指導者不足、役員不足が目立ってきた。このままいくと非常に難しい状態になってしまう。そのため、自分も年を取ったため、自分で後継者を見つけて譲るように手配した。役員をしている人は、募集と言っても入って来ないと思う。だから自分で「この人は」という人を探して後継者を作る努力も必要ではないかと痛切に感じた。

【桑山委員】

10団体からいろいろな意見を聞いたが、結構重複して役員をしている方が多いのではないかと感じた。県内でこの前大きな事件が発生したが、上越交通安全協会などの支部がたくさんあるが、町内会やいろいろな団体が一つのことに対して協力できる体制ができていないのでは。それぞれの団体は一生懸命活動しているが、横の連携がうまくできているか疑問を感じた。今後地域協議会でどれだけできるかはいろいろと問題があると思うが、そう感じた。

【高橋委員】

特に問題になっているところとしては、交通安全協会が2つ、3つある形になっているが、昔の駐在所の単位である。防犯協会も交通安全と一緒に。灰塚の方はそんなに町内会も変わっていない。飯地区は、駐在所がなくなり高田駅前交番になったが、昔の駐在所の管轄が防犯協会、交通安全協会の管轄。その管轄が、小学校、中学校の管轄の分け方と違っている。大貫1丁目～4丁目のうち、3丁目と4丁目は飯地区の防犯協会、交通安全協会が担っているが、小学校は高田西小学校であるため、連携がうまく取れていないのが事実。横の連携があればそういったことはなくなるが、その辺は行政の縦割りの管轄であるため、食い違っているのではないかと。非常に活動しにくく、苦勞している。普段は高田西小学校に行っているのに、飯小学校の管轄の防犯協会、交通安全協会になっているため、その辺を整理し、横との話をしてもらい改善していかなければならないと感じた。

それから、民生委員・児童委員について、250世帯に1人、これは以前から同じ数字である。報酬はほんの少し2年くらい前に上がったと思う。250世帯に1人というのは、本当に大変な仕事だと思っている。高齢化社会でどんどん高齢化が

進んでおり、民生委員の受け持ちの件数はなかなか減らずに増えるばかりで、民生委員の人員は増えないのが問題ではないかと感じた。

老人クラブ連絡協議会もいろいろと悩み事がたくさんあると思うが、春日山荘で各町内が集まり毎年交流会をしていたのができなくなったという話を聞いた。それは、以前はバス代が出てバスを出していたが、現在はバス代が出ない、バスが回せないということで、バスでの送り迎えを老人会で行うとなるとなかなか難しいため取りやめてしまったというのが現実で、活動が萎縮してしまったと見受けられた。その辺をどうすればよいか。金谷地区の南の方では、一つの町内だけではなかなか活動ができないため、7～8町内くらいが一緒になって活動をしているという話を昨日聞いた。これからの課題として、60、70歳になっても「私は若い」という気になり、年を取っても老人会に入る人数が少なくなり、年々加入者が少なくなってきたと感じている。

それから金谷体育協会だが、昔はいろいろな競技があったが、今は3つか4つ。ソフトボール、野球、南葉山の竹の子狩りなどが主流になってしまった。元の競技種目はもっとたくさんあり、もっと元気があったが、今は種目が少なくなって大変だと感じた。流行性もあり、今の大人の遊び方、余暇の使い方の方向性が少し変わってきて、そうなったのかと思う。私も竹の子狩りに参加してみたが、若い人はさっぱりいない、元々参加していた人だけしかいないという感じだが、それでも参加者も多いし、一番人気のある種目ではある。ソフトボールや野球もまだ人気があると思うが、他の種目はだんだんしなびている感じを受けた。その辺の解決をどうすればよいかを話し合うまでは行かなかったため、途中で終わっているが、今後の問題だと思う。

民生委員、交通安全協会、防犯協会、体育協会、老人クラブ辺りは、これからの活動はどうしたらよいかというのが、なかなか。なり手がいないということで、民生委員は負担がものすごく大きいですが、同じように言われるのが消防団の分団の団員の募集。これも同じ状態であるため、昔ほど活気が出ない、なかなか集まってくれない。昔であれば40歳になれば退団しており、若い者でなければ駄目だったが、今は60歳を過ぎてもまだ団員というのが現状ではないかと思う。各団体とも課題

はものすごくあると感じた。

【竹内委員】

集まった団体が多過ぎて、細かいところまで話し合いができなかったと感じている。それぞれ何かを言いたいために来てもらったが、1回話したら2度目が回ってこない状況だった。

それから、どの組織もそうだが、組織がある程度落ち着いていないというか、継続的に活動してくれる方がだんだん少なくなっていると感じた。長になる、またはそれを補佐する人はある程度継続的な活動をしないと、団体の力がどんどん落ちて行くと感じた。

また、各組織の若返りが進んでいないと感じた。自分の町内でもそうだが、なかなか役員のなり手がいない、若い人が入って来ないという状況であるため、その辺を少し皆で考える必要がある。

そのような状況の中で、それぞれの組織の問題点をどう解決していくのかということになると、やはり団体をもう少し絞りながら、「今日はこの問題」と絞りながら話し合いをしていくことにより、それぞれの団体の思っていることを一つでも解決してあげた方がよいと思っている。

【西条委員】

やはり数が多くて、一つずつ皆さんに聞いていたが、皆さん何か言いたそうな顔をしていたと印象に残っている。

若い人とはどこからが若い人か。私も40代後半を越えたが、昔は若い人といえれば30代だったが、平均寿命が延びてきて50代でもまだまだ若い人ということで、消防団にも所属している。かといって他の人といっても、人もいないし、やりたがらない。私も昔消防団に勧誘されたが、自身があまり体力もなく運動不足だったため断った。こういった話を聞いていると、自分に突き刺さることも多いため、偉そうに感想というと心苦しいものがある。

一つは、日を分けて協議する。10団体あるため、半分くらいで2週に分けて意見交換する。後継者がいないところについては時間を割き、特に問題の顕著な会に関しては、今後も年度の中で2回3回と話し合いをしていけば、いい方向性が出る

のではないか。

【村田副会長】

各団体についての意見は別にして、私たちが当初目的にしていた各団体の基本的な活動や立ち位置は、深さはなかったものの基本的な部分はそれなりに各団体から説明してもらい、私たち地域協議会委員は理解できたものと思っている。いずれにせよ、今回該当しなかった団体も含めて、先人、先輩が築き上げた団体を一生懸命継続して務めている役員の方には、私たちも敬服している。

また、各委員から各団体についていろいろと意見を言っていることについて、地域協議会、あるいは地域協議会委員が何をしてあげられるのかと思っているところであるため、この後どのような方向でこの結果を進めていけばよいかということ、私たちが大きな課題にしていかなければいけないと痛感している。

【山口委員】

今回の10団体との意見交換は大変よかったと思う。ただ残念なことは、後継者がいない。60歳定年だったのが、今は65歳で、70歳となっていくのでは、なかなか仕事に就きながら団体の活動はしていけないし、人口も減っている。市は金がないため、あらゆるところで活動予算の制約をかけてきているのが実態で、昔のように悠長に活動できる状態ではないのが皆さんの悩みではないか。それが後継者不足に繋がるのではないかと思う。私が心配しているのは、防災などいろいろなことも含めて、消防団は、昔は「地域のことは、地域の消防に任せろ」というくらいの意気があったが、今はもう消防の活動すら大変だというので、なりたがらない。上越市消防団にいろいろと期待しているが、昔よりかなり希薄になってきたなと感じている。皆お互いに苦労しているが、なかなかうまく活動にならない。こういったことを市や上部団体に向け、もう少し充実させるような取組をしてあげないと、組織だけに任せるのでは難しいと思う。十分な悩みは聞けなかったが、第1回としてはこれでよかったと思った。

【吉村委員】

意見交換会という名目だったが、参加した団体はどのようなイメージで来たのか。言い方を変えると、意見交換会ではなく活動報告会のような気がした。少し残念だ

った。時間の制約もあるため仕方がないというのはあるが、せっかく足を運んでもらったため、もう少し突っ込んだ、具体的な細かい話をしたかった。それでも直面している課題を各団体からいくつか聞かせてもらったため、我々協議会としてもこれを全部、一つ一つ消化して、何とか私たちがバックアップできる、助けられることはないか、手段はないのか、消化していくのが勤めだと思う。第1回目であるため、これからどんどん、やり方を変えたりしながら、少しでも何かの役に立てたらよいと思っている。

【高宮会長】

金谷地区は上越市の中でも人口が増えているエリアになるが、その中であって、やはり高齢化、それから若い方の参加、あるいは継続してくれる活動力のある方が、だんだん少なくなってきたという意見が多かったと思う。これも、昨今の各企業の勤務状況等が反映されているかと感じている。皆さんから今後の進め方に続く意見も多々出てきた。それをこれから生かしていき、金谷区地域協議会がこの団体等にどういったアドバイス、どういった考え方で、どういったことをすれば、もっと活力のある地域になるか、ということに繋いでいければよいと、皆さんの意見を聞いて感じた。

意見交換の結果、今後どうするかは、今後の進め方に関係することから、次の議題で話し合うことにし、議題（1）についてはここで一旦終了したい。

一次第4議題（2）金谷区の地域課題「他団体や他地域との連携」の今後の進め方について—

【高宮会長】

次に、次第4議題（2）「金谷区の地域課題『他団体や他地域との連携』の今後の進め方について」に入る。

地域の団体がどのような活動をしていて、どのような課題を抱えているか知るために、今回「住民の生活をサポートする団体」10団体と意見交換を行った。意見交換の内容については、資料No.2のとおりである。

まず、意見交換の結果をどう生かしていくかについて協議したい。委員に意見を求める。

【山口委員】

今聞かれているのは、各団体から聞いた問題点や意見をどうやって解決していくか、ということか。

【高宮会長】

地域協議会として手伝っていくことになるかと思う。

先ほど西条委員からは、意見交換した10団体を小グループに分け、もう少し突っ込んだ話、地域協議会からこうしてほしいという意見交換を、とのことだった。また、活動内容の報告ではなく、「こうしてほしい」「こういったことで力になりたい」といったところを入れた方がよいという意見もあった。

【永野委員】

今回、10団体から話を聞いた。その他にまだ数団体あると思うが、それはどのような扱いをするのか。

【高宮会長】

各町内会と正善寺バス利用促進協議会が、住民の暮らしをサポートする団体としてあったと思う。

【永野委員】

残っている数団体は後へ送り、今はこの10団体について絞り込みをしようということか。

【高宮会長】

皆さんの意見がそうであれば、そちらの方向に持って行けるかと思う。

各町内においては、皆さん知ってのとおり、消防団の団員も苦慮されている一つの要素。大きな災害や火災等が起きると団員の方が出動して現場を走っているわけだが、若い方はいるが消防団員にはなかなか加入してもらえないというのが各町内にある。

【川住副会長】

前回聞いた中でたくさん意見があったため、そちらの方の話をするのが大事。新

たに他の団体の話を聞いても、話ばかり聞いていては解決に至らない。

若い人がいない、後継者がいないといっても、では地域協議会でそういった人を探せるのかというと、とてもできない話である。後継者というのは、昔と違う。親がやっている姿を見て次の人たちが入るという循環がなされていたと思う。ところが、だんだん若い人は若い人、年寄りには年寄りといった形で、入らなければいけないという気持ちが薄れているというか、続いていない。若い人は、日曜日になれば遊びたいとか、仕事で一杯一杯という考え。そのような中でいくら進めても、消防団に入ってもらうのは非常に難しい。それを何とかするには、町内会長なり役員なりが熱心に説得する、あるいは先輩たちが本当に真剣に勧誘しない限り、「入れ入れ」と言っても入る人はいないと思う。どれだけ真剣に勧誘するか、そこに尽きる。

【村田副会長】

高橋委員の指摘のとおり、交通安全協会、防犯協会は現在、飯地区と灰塚地区という2つの地区名で団体がなされているわけだが、これからは飯地区ではなくて高田西地区でもよいのではないかという発想を交えて各団体と話をし、その上部団体、例えば交通安全協会は警察だと思うが、そういったところにその団体が申し出るのを地域協議会が後押しする、というのができるのかどうか。それから、高橋委員のとおり、民生委員は250世帯で1人ということで今日まで来ているが、今は高齢者の割合が3割を超えて増えてくるわけだから、世帯数の割合をもっと少なくする。民生委員をされている人は大変な労力だと思う。それには民生委員を増員すればよいが、民生委員のなり手がいないということでやぶ蛇かもしれない。そういったことをクローズアップして、私たち地域協議会が団体ともっと話をし、上部団体へ地域協議会が一緒になって提言、提案、あるいは要望ができるのかどうか、その辺を皆さんと検討したい。自主的審議事項を求めるばかりではない。自分たちで解決できるものは地域協議会でしてほしい、というのが市の方針だと思う。何も市長に意見書を出すばかりでない。

【齋藤委員】

先回の意見交換会では、とりあえず暮らしをサポートする団体の中から、都合のついた10団体から、活動報告や意見を聞いた。いろいろな活動報告は聞けたと思

うが、時間が足りずそれで終わってしまったとのこと。多分そうなるだろうと感じていた。

地域協議会が団体の意見を聞いて、話を聞いた団体に何かを言ってあげる、あるいは助言をするという考え方はどうかと思う。もちろん意見交換会は意義のあることだと思うが、まるで知らない団体ばかりではなく、むしろかなり知っているが、その団体に対してこちらから「こうしてはどうか」と話をすれば、地域協議会に何とかしてもらえないのかという願望、希望を抱かせる。地域協議会は他の団体からの要望に耐えうる組織なのか。そのため、私たち地域協議会は、聞くだけではなく、それに対して答えるような組織になっていかなければならない。非常に難しい問題があるが、それは私たち地域協議会に対しての、自らの課題だと思う。その課題に対してどのように取り組んでいくか、地域協議会の在り方というのが、今後の課題だと思った。そういった話もしてみてもどうか。

【高宮会長】

先ほどの村田副会長のとおりに、市長に対して意見を述べるだけが地域協議会の役目ではない。それは皆さんが持っている手引きの中に書いてある。それを理解してほしい。地域の中で対応すべきものも我々で考えて、地域との話し合いに進んでいく。

民生委員は250世帯に1人との話があったが、この第4地区は3名増えた。これは民生委員の会長会議で、金谷地区は人口が増えており、会議も増えていることから、やはり250世帯に1人ではきついという話があった。

この第4地区では春日区の方で、2名か3名、民生委員の数を増やしたという事例がある。担当している民生委員の方のエリアが広い、世帯数が多すぎるといったようなところを、会議の場で、あるいは町内会長に意見し、それがまた市に入っていく、そこに地域協議会が加われば力強い発想になっていく。そこにおいては、1人増えることによって予算との関係があることから、すぐによい返事は出ないが、民生委員の方の苦勞を考えると、そのようなところの後押しが大事な要素になるのではないかと感じる。

【竹内委員】

30分くらいだったが、どのような形で連携していくかというのが見えない。交通安全協会の問題であれば、一緒にできるのか、それとも支部ごとにした方がよいのか、などといった内容がつかみきれない。一緒にやりたくないこともあるだろうから、それを見つけていき、「地域協議会からこんな話があったが、私達はできないため、上部団体に言ってみてもらえないか」など、そういった形で進んでいかないとまとめきれない。高田西小学校区は2つに分散しているため、それでよいのかということになる。それならば、防犯協会と交通安全協会は3つの小学校区ごとで持って行ってほしいなど、そういった形でまとめていかないと。あっちに飛んだりこっちに飛んだりしていると、何をしたいのかが見えない。体育協会としてはどう持って行けばよいのか、何を要望しているのか、そういった形でまとめていかないと。同じく民生委員も、増やすといっても現場がどうなっているか分からない。地域協議会はどの部分でどう入っていくのかを、今後の方向性として持って行った方がよいのではないかと。

【高宮会長】

それについては私自身も行動しておらず申し訳ないが、上越交通安全協会飯支部、灰塚支部については、昔の駐在所の範囲ということで、その辺の持ち回りというか、本来は交通安全課に行き、どうなのかという意見を聞いて来なければ、返答できないような状況だと思う。

竹内委員からそのような話が出たが、どうか。もっと的を絞るということから、先ほど話したように小グループに分けてもっと意見交換をするか。

【土屋委員】

意見交換会に来た10団体に対する回答を持っていくのか、それとも話が出なかったという感じで進めるのか。今後の結論というか、着地点をどう持って行くのか確認をしたいのが一つ。

もう一つ、私はこの意見交換会に出ていないが、若い人については、山奥の町内で本当に若者がいないということであれば若者がいないことが悩みだと思うが、金谷区に関しては人口が増えている。確か上越の中で5位か6位くらいだったのが、3位か4位に上がった。お年寄りが引っ越してきて増えたのか、それとも若い人が

増えたのか。若い人が増えているのであれば、若い人たちの心が動かないということになるが、その原因は何なのか。若い人たちは住んでいるのに、こういった組織に携わるのは難しい状況にある。それはどうしてなのか。正直に言うと、こういった団体の方たちから私に声が掛かったことは1度もない。システムが問題なのか、それとも慣例として、人生経験が豊富な方たちがすることになっているのか。それは地域協議会で話し合うことなのか分からないが、そのようなことを感じた。

【高橋委員】

先ほどから話はしているが、土屋委員の意見もそうだが、結果が見えない。「ではどうするか」という話になっていない。また、「他団体や他地区との連携」について、「他地区」までは行かないと思うが、団体の意見を聞いてみても、あまり緊密に連携してしまうと、「地域協議会は何かしてくれるのか」となる。「何もできない」となると、「では変なことを聞くな」で終わってしまう。地域協議会には何の力があるのか。他の団体と連携し過ぎると、そのようなことになる。今後進めるのか進めないのか、いずれにしても、返答ができない、市の方にも上げられないのであれば、この辺で打ち切った方がよい。連携どころではない。その辺をはっきりさせてから意見を聞いた方がよい。できるのかできないのか、あやふやで話をしている。出た意見を上に上げられないのであれば、話しても仕方がない。会長からきちんと進めてもらわないと。ただ「どうか」と聞いても、絶対に結果は出てこない。ただ話し合うだけでよいのであればよいが。市では地域医療センター病院は動かすかどうか、力のある人が集まって1年間話したが、何もなっていない。あのような会議ならしない方がよい。

【川住副会長】

前回の意見交換では団体から意見を聞いた。要望を求められているとは思えない。そのため、それに対して、全ての団体に答えることは考えなくてもよいと思う。皆さんが知らないこと、何をしているのか話を聞いた程度であり、「こういうことをしてほしい」という要望はなかったと思う。そのため、それに対する回答はしないということで。全てに回答するのはものすごく大変。これ以上意見を聞いたら收拾がつかなくなると思う。

先ほど、自分も若いつもりでいるが何の勧誘もなかった、という意見があった。「(勧誘が) 来たら入ろう」と思っていたが全然誘いがなかったというのは、消防の組織、会長なりが自分の地域の人を把握しきれていないからではないか。どの家の誰が今度この年齢になるから、消防団長と町内会長でお願いに行くなど、そういった組織が出来上がっていないのではないか。

【村田副会長】

川住副会長のとおりに、意見交換会は要望を受けた会ではない。私たちは要望を受けてそれに答えることができるような地域協議会、委員ではない。そのため、「答えを出してほしい」といったことは団体も思っていないし、そういった心配はしなくてもよいのではないかと思う。

それから、この10団体の中で、地域協議会が寄り添って助言をしたり、あるいは上部団体に組織的な部分で実情に沿わないのではないかというようなことを、その団体ともう1度話をして、了解をしてもらいながら進めることについては、地域協議会はできるのかなど。各団体に私たち地域協議会が横槍を入れるようなことをするのはいかがなものか、といった意見もあると思う。しかし、高橋委員のおりに、交通安全協会や防犯協会の組織は、今駐在所がなくなっているにもかかわらず、昔から続いている飯地区がそのまま残り今日に至っている。私たちの先輩の町内会長も変えた方がよいと思っていたし、現に町内会長で思っている方もいる。そういうように、その辺をもう1度相談して寄り添う団体があるのか、10団体全部これで終わりにするのか。地域協議会が寄り添ってもう1度話し合いをして、了解のもとで改革できることがあれば、地域協議会としてやっていったらどうだろうか。それを皆さんに確認して、意見をもらったらどうか。そうでなければ、このままで終わりになる。

【山口委員】

感想を聞いたわけだから、この感想を聞いて今後どうするかという落としどころを決める。そうしないと、今のような流れで進めたら何時間しても結論が出ない。先ほど皆さんが感想を述べたが、それに対して今日はどういった方針ですか、決めてほしい。

【高宮会長】

具体的に言うと、どのようなことか。団体を絞るのか。

【山口委員】

一緒に寄り添って考えていく程度にするか、それとも、上に陳情ではないが、そこまで我々が加担していくのか。しかし、我々にはそれはできないと思う。感想を述べてやる程度。今後これをどう扱うか、方向性だけを決めればよいのではないか。

【齋藤委員】

意見交換会は決して無駄ではない。参加してくれた各団体の人たちは、日頃の活動等について話した。地域協議会の方に話をしたため、「地域協議会から何かないか」という期待はあると思うが、地域協議会としては、今回の団体の活動内容はある程度分かってきた。その中で、お互いにディスカッションをして、「我々はこのように考えているが、地域協議会としても何か意見があれば言ってほしい」というように、団体の方から我々に対して投げかけてくれれば、こちらから言える。それを抜きにして、一方的にこちらの方から「こうなさい」、「こうではない」、「こうしたらよいのでは」という話をしては、誤解が生じる。地域協議会がそういった各方面の団体との話し合いの中から情報を得て、それが自主的審議に繋がっていかねばならないし、そうあってほしい。自主的審議をするためでないで、討議するのに値しないということになる。自主的審議というのは地域協議会としての一つの生命線だと思う。全て自主的審議に繋がるため、それを大事にして議論をしていく。今回の意見交換会の中にも、自主的審議に持って行けるような話はあると思う。村田副会長のとおりに、学校区は3つあるが、交通安全協会等は2つに分かれるため、どうしても無理がある。もう少しお互いに了解できるような名称を。そのように話を持って行ってもよいと思う。地域協議会としても、向こうはそういう気がなければどう考えているかなど、こちらからアクション、アドバイスをしてもよいと思う。

【石野委員】

皆さんの意見が出ているが、恐らくまとまっていけないと思う。これをいくら話しても、自主的審議の方向には行かないと思う。

資料No.2を、参加した団体に送付はできるか。

【高宮会長】

もう送付してある。

【石野委員】

その時に、あわせて「このようになったが、更に行政もしくは上部団体への要望や、課題等の解消はないだろうか」、といった文言を入れて返してもらった方がよかった。そうすると、それで上がってきたものを自主的審議に上げるか、話し合いができると思う。ここでの話だけでは時間だけ取られて何も進まない。

【高宮会長】

石野委員の考え方は分かるが、地域にどのような団体があるかということで意見を聞こうとして、聞いた結果が資料No.2のとおりだった。それに対して我々地域協議会ができることはあるかということで、今日は感想を聞き、小グループに分けて話を聞こう、などの話があった。私の方で、上越交通安全協会飯支部と灰塚支部を合併する、といった結論を出すものではないと思う。皆さんの考え方で、この団体とこの団体の方からもう1度集まってもらい、もう少し具体的に意見交換をして、そこに我々が手伝えるものがあるのかないのか、というような進め方でよいと思うが、違うか。それが最初に皆さんから意見交換した時の感想を聞いた内容だと思う。委員の方からの、金谷区にある団体がどのような仕事をしているか分からない、という意見を基にして、集まって意見を聞いた。その中で、この辺は我々として何かできるかどうか、もう少し詳しく話を聞こう、という話で進めるといった話をしてきた。

皆さんの意見をまとめていきたい。今までと同じ10団体にもう1度意見を聞き、もう少し突っ込んだ意見交換をする、ということが1点目。団体から出された課題等を自主的審議に取り上げる、ということが2点目。それから、「他団体や他地区との連携」を打ち切る。同じことを話していても意味がないため、次の課題に進む。次の課題というのは、「金谷区地域課題について これまでの主な意見の一覧」、の中で、今回は取り上げたい希望の一番多かった「他団体や他地区との連携」を取り上げ、自分たちの知らない団体が何の仕事をしているか分からないということで、これをまず聞こうではないか、という意見でまとめ、10団体に聞いた。その結果

について、今感想を聞いた。その次は、「雨水排水」、「観光」等がある。これについても同じようなことが出てくるが、それを我々委員が知るということに繋がる。

訂正する。「他団体や他地区との連携」を打ち切るのではなく、10団体との意見交換会の件はやめるということ。

【村田副会長】

10団体全てではなく、絞る。寄り添う団体を10団体の中から選ぶ。それを入れてほしい。やるかやらないかだけではない。10団体とまた同じ時間をかけるのか、この中から絞るのか。

【高宮会長】

では、この10団体の中からも少し絞り込み、少ない団体と意見交換をする方向に持って行くか。もっと突っ込んだ意見交換をする。

【高橋委員】

交通安全協会、それから防犯協会については、自分たちの団体が不便だと感じたら、自分たちで会議をする。変更するのは簡単。不都合が出てくるためこのように変えた、と警察に言えばそれで終わり。その2つの団体で「そちらの方も名前を変えてほしい」、「私たちはこうなった」と話し合わなければいけないが、ここで協議するものではない。決まれば、任意団体であるため、届出を変えればよいだけの話。

体育協会や民生委員などの悩みは別。消防団と民生委員は仕事の負担を考えなければならぬ。金谷体育協会は、単独で自分たちで考えなければならぬ。

そのため、協議するものはないと思う。そして、先ほど言ったとおり、あまり突っ込んで聞きすぎると、「何をしてくれるか」となってしまう。

【吉村委員】

「困っている事情は聞かせてもらった。事ある毎に頭に置き、協力できる機会があれば協力させてもらおう」と整理してはどうか。「要望があれば要望書を出してほしい。それについて吟味する」ということ。

【高橋委員】

どのような団体がありどのような仕事をしているのか、この中で知らない人は一人もいない。

【高宮会長】

知らないという意見が出たから。

【高橋委員】

老人会、交通安全協会、民生委員、皆知っている団体。

【村田副会長】

皆さんの意見で、これが一番目の審議事項になった。16人の中で一番手を挙げた人が多かったため、これを一番に持ってきた。自分たちが手を挙げていて、こんなことはする意味がないというのは。

【高橋委員】

私は手を挙げなかった。

【村田副会長】

総意を多数決で決めた。

【高橋委員】

仕事の内容を見ると、そのような結果になる。その時よいと思っけていても。

【石野委員】

これ以降はどうするかというのは、後でまた協議するという話だったはず。ここまでしか決まっていな。ここでやめるならそれでよいし、まだ突っ込んでするならそれでよい。ただし、見る限り突っ込めるような題材はない。

【高宮会長】

10団体との意見交換会の件はこれで終了することについて採決し、賛成多数によりこれで終わりとするに決する。

こういった意見が出たということ、みんなで認識しておいてほしい。

また、村田副会長のとお、この件はみんなで手を挙げて、一番に持ってきた課題ではなかつたかと思うため、知らないということがないようにしてほしい。

—次第5 事務連絡—

【高宮会長】

次に、次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・今後の日程

第5回地域協議会 8月22日（水）午後6時～ 福祉交流プラザ第1会議室

第6回地域協議会 9月26日（水）午後6時30分～

滝寺集落開発センター（出張協議会）

- ・配布資料

中郷区地域協議会意見書（写）

創造行政研究所ニュースレター

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。